

日露医学医療交流国際シンポジウム

小児口腔科学分野 野田 忠

第11回日露医学医療交流国際シンポジウムが、平成16年8月10日・11日に、歯学部が開催担当となって、朱鷺メッセで行われました。過去のシンポジウムは医学部系での開催で、歯学部が開催担当になったのは初めてのことです。第1回のシンポジウムは平成5年にホテル新潟で開催され、今回は11年ぶりの新潟での開催でした。第1回のロシア人参加者は約40名でしたが、今回は約100名と過去最高のロシア人研究者が参加し、熱心な討議・交流が行われました。

シンポジウムでは特別講演として、荒川正昭前学長が「日露医療交流の過去と未来」を、また、ワシントンDC健康政策解析施設長のエドワード・バーガー氏が「健康部門における国際協力」

を講演しました。分科会は①内視鏡診断、②循環器病、③歯科学、④内視鏡治療、⑤小児科学、⑥地域医療の6部門が開催されました。

歯科学の分科会では、興地隆史教授が座長となり、葭原明弘先生、田口洋先生はじめ、ハバロフスクのアントノーヴァ先生など7演題の講演が行われ、討議と情報交換が行われました。

このシンポジウムは日露医学医療交流財団が主催し、開催運営を歯学部が行うという複雑な開催形態で、財団との連絡、会場の設定、プログラムや抄録集、参加認定証の作成など、戸惑うことが多くありましたが、小児口腔科学分野の教室員の全面的な協力があって、開催を成功させることができました。

